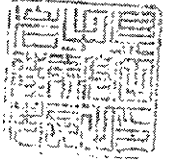




陸高建第 146 号
平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省道路局長 殿

陸前高田市市長 中 里 長 門



今後の道路行政についての意見・提案について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日付け、国道企第 37 号で依頼のありました標記について、次のとおり
回答いたします。

記

- 1 今後の道路行政についての意見・提案
様式①～④ 別紙のとおり

- 1 東北地方の沿岸地域にある本市では、三陸縦貫自動車道及び内陸部とを結ぶ幹線道路等、道路整備による広域的な交流・連携の促進と産業経済の振興を支える高速交通ネットワークは必要不可欠で、その骨格となる道路整備を進めるための道路特定財源の確保と、東北地域への重点的な配分をすること。
- 2 環境保全や食料供給など国家の基盤を支える我々地方が、今後とも持続可能な地域社会たり得るためにも、道路財源問題は、地方の必要不可欠な道路整備と地方財政にとって極めて重要な課題である。特に道路特定財源の今後の扱いについては地方に偏在する納税者の理解が得られるよう、また、市町村の道路財源には過去の道路整備の起債の返還も含まれることも十分考慮し、前年度のレベルを低下させないように措置すること。
- 3 地方道路整備臨時交付金制度については、市道等の整備や維持、補修と地方が自主的に使える、誠に有効な制度であることや、仕掛かり中の道路もあることから同制度の継続・拡充を強く求めると共に、今年度創設された地方道路整備臨時貸付制度の継続を求める。
- 4 道路整備のコスト縮減と併せたローカルルール推進による事業の大幅なスピードアップを図ること。なかなか出来ない立派な道路より、地域の実情に応じた道路を、住民の参画・協働・理解・合意による、地域住民に歓迎される、真に必要な道路を、安く・早くつくる工夫を凝らすべきで、「1.5車線の道路整備」を含めた今後の道路行政の進め方について、地方から提案いたします。
- 5 今後における高速道路の整備は採算性だけではなく、地域の実情に応じて、柔軟に、格差の是正や活性化及び医療や防災面等を含めて総合的に判断し、効果的かつ迅速な整備促進を図るべきである。

○ 現状 (立ち遅れた地方の道路整備) 1 三陸縦貫自動車道「高田道路」7.5kmを平成 6 年度から事業中で先行整備区間(1-2 工区)3.4kmが平成 20 年度供用予定であるが、残る(1-1 工区)4.1kmの施工と、高田道路からの延長となる宮城県気仙沼市間の事業化が未だなされていない。 2 国道 340 号「高田バイパス」1.8km及び「主要地方道大船渡・広田・陸前高田線」4.2kmについては、現在事業中で、それぞれ平成 20 年度、21 年度での供用予定であるが、当地域の国、県道での未改良部分には特に狭く急カーブ、急勾配の箇所が多く連続する。 3 当市における市道の改良率及び舗装率については、共に 45.9%であり、どちらも 50%にも満たない整備の現状となっている。 4 本市、唯一の幹線道路であります国道45号は、太平洋沿岸を通過していることから、地震・津波及び台風等による集中豪雨や土砂災害の危険区域で、現に昭和35年のチリ地震津波や平成14年の台風6号の豪雨の際には、国道45号が被害を受け通行不能となり緊急輸送や避難路として機能しませんでした。	○ 課題 1 現在事業化されている三陸縦貫自動車道「高田道路」(1-1 工区)4.1kmの整備促進と、引き続いての延長区間、宮城県気仙沼市までの早期事業化することが極めて重要な課題である。 特に、高速道路は全線つながらなければ機能せず、ネットワークとして活用されない。早期の三陸縦貫自動車道の早期全線開通が待望される。 2 当地域の沿岸部と内陸部を結ぶ国、県道としての幹線道路については、難所となる峠越えが大きな課題となります。 狭隘で急カーブ、急勾配の箇所については、抜本的なルート改良を含めた、早期の拡幅改良整備が必要である。 3 地域住民の生活道路である市道等の整備促進については、地方道路整備臨時交付金に今まで以上、これからも大きく依存しなければ事業の遂行は難しく、同制度の存続が、今後の地方財政に大きな影響を及ぼすこととなることが、特に重要な課題である。 4 現在の国道45号に替わる「三陸縦貫自動車道」を地域の防災ルートとして早期整備し、地域住民が安全と安心できる、沿岸地域の「命をつなぐ道路」として確保することが最重点課題である。
---	---

・本市では、恵み豊かな自然と永年培われてきた歴史・文化などの優れた地域特性を生かし、「健康」・「環境」・「創造」をキーワードに、「健康で文化の薫る海浜・文化都市」の実現を目指しております。

その目指すべき将来像に向けての基本となる、道路網の整備が本市を始めとする沿岸地域では立ち遅れております。特に高速交通時代に対応した「三陸縦貫自動車道」や沿岸部と内陸部を結ぶ幹線道路の整備促進は、地域間交流の拡大、産業振興に欠かすことの出来ない社会基盤であり、当地域に取りましては、真に暮らしと命を守る道路となっております。

この道路網の早期実現を本市の重点事項に掲げると共に、永年にわたり、地域住民が心から安心して生活できる道路の確保を待望しているところであります。

・本市では、市民の生命、財産を守るための、防災対策の充実として、災害に強いまちづくりを目指しております。

そのためには、防災用道路の確保は急務であります。現在の国道45号に替わる「三陸縦貫自動車道」を早期整備し、地域の防災ルートの基幹道路として、地震、津波などの災害時には緊急輸送路や避難路等として確保する、地域住民が安全と安心できる、災害に強いまちづくりを目指すべき将来像としているところであります。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

岩手県陸前高田市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域間交流の拡大、産業の振興 ・地震、水害等の災害に強い国土づくり	三陸縦貫自動車道の整備 国道340号「高田バイパス」及び主要地方道大船渡・広田・陸前高田線の整備 昭和35年のチリ地震津波や平成14年台風6号等による災害時の際には国道45号は通行不能となり、緊急輸送路や避難路として機能しなかった。 三陸縦貫自動車道の整備・防災ルート確保	農産物、水産物を新鮮で首都圏に提供 新たな観光資源の開発等観光客の誘客 企業立地と雇用の場の確保 予期できない自然災害への心構えとその対策として「三陸縦貫自動車道路」を防災用道路として確保することで、地域住民が安全、安心して生活できること。 沿岸地域住民の生命、財産を守る「命をつなぐ道路」となる「三陸縦貫自動車道路」に期待、効果が大なるものがある。	・今後における高速道路の整備は採算性だけではなく、地域の実情に応じて、柔軟に、格差の是正や活性化及び医療や防災面等を含めて総合的に判断し、効率的かつ迅速な整備促進を図るべきである。